



学校だより

10月号

令和3年9月30日、10月1日

横浜市立能見台南小学校



← 学校ホームページ
QRコード

嬉しい手紙が届きました

校長 榊原 一紀

新型コロナウイルスの感染者数が減り、10月4日から通常の教育活動を再開することとなりました。保護者の皆様には、これまでの分散登校など様々なご協力ありがとうございました。

この分散登校期間中にタブレットの活用が進みました。ロイロノートスクールでの宿題やオンラインでの朝の会など具体的に活用されたことは、今後万が一、学級閉鎖などがあった場合にも学びを進めることができます。「GIGA だより」でもお伝えしましたが、ABグループの交流に活用したり、係活動で使ったりするなど、タブレットを使った学習や活動の可能性を感じているところです。これからもご理解・ご協力をお願いします。

さて、能見台5丁目にお住いの高橋様から、新聞の投書欄に掲載された次のような記事と手紙が学校に送られてきました。

美化活動をねぎらわれて

私は日頃から、町内の環境美化活動に参加している。少し前の日曜日の朝も、自宅近くの遊歩道にそびえる大木の落ち葉を1人で掃除していた。そこに小学校高学年くらいと思われる少年2人が通り掛かった。草むらで何やら見つけて、手に取って話し合っている様子。「珍しい虫でも見つけたのだろうか」と思って声を掛けた。すると「きれいな石を見つけました。掃除をしてくれてありがとうございます」と、少年たちから予期せぬねぎらいの言葉が返ってきたのだ。さらに「何か手伝いましょうか」という。私への優しい心遣いに、胸がジーンとした。「ありがとうございます。もう掃除は終わりにするので大丈夫ですよ。ちゃんと水分補給してね」と精いっぱい気持ちを伝えると、2人は元気のいい返事と軽やかな足取りで去って行った。自分の暑苦しいマスク姿を忘れてしまうような爽やかな心地になり、一日を気持ち良く過ごせた。これからも健康に気をつけ、美化活動に携わっていかれたらと思う。

児童との出会いに感銘をうけたことから、新聞社に投書したそうです。その後、ぜひ学校だよりで伝えたいと高橋様に連絡を取り、お話を聞かせていただきました。掲載時に割愛されていましたが、一番うれしかったのは、別れた後に二人の少年が戻ってきて「何かお手伝いできることはありませんか。」と問いかけてくれたことだったそうです。そして、そのような素晴らしい児童を育てている保護者と教職員に感謝の言葉をいただきました。私自身も登校の様子を観察しながら児童に挨拶をしていると、私より先に「おはようございます。」と大きな声で挨拶する児童がいます。そんな日は本当に気持ちがよいです。何気ない振る舞いで、相手を気持ちよくさせることができる本校児童は素晴らしいです。そして、その素晴らしさを伝えてくださったお手紙は宝物です。